

令和6年度 第1回木更津市市民活動支援センター運営協議会議題資料

1 令和6年度事業の取り組み状況

利用状況(データは8月末時点)

① 利用者数

部屋	年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
第一会議	R5年度	176	201	177	192	172	918
	R6年度	202	188	241	281	195	1107
	比較	26	-13	64	89	23	189
部屋	年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
第二会議	R5年度	92	73	55	113	77	410
	R6年度	91	70	111	127	151	550
	比較	-1	-3	-56	14	74	140
部屋	年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
フリースペース	R5年度	306	389	270	403	546	1914
	R6年度	276	451	457	395	352	1931
	比較	-30	62	187	-8	-194	17

年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
令和5年度合計	574	663	502	708	796	3,243
令和6年度合計	569	709	809	803	698	3,588
前年度比較	99%	107%	161%	113%	88%	111%

・少しずつではあるが施設全体の利用者は増加傾向にある。継続し続けている周知、広報の結果が表れ始めている。

・登録団体以外にも地元ボランティア団体、市民活動家による打ち合わせや会議での利用も増えつつありコロナ騒動、移転による下振れが少しずつ戻っていくのが感じられる。

・依然として施設設備に関する不満の声が多くあがっている。全ては不可能だが、やれるところから修繕、改善していきたい。(階段下スロープ、男子トイレ便座、今回新たに繋がりがづらかった wi-fi を新調した)

② - 1 各会議室利用件数

部屋	年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
第一会議	R5年度	26	28	27	31	30	142
	R6年度	35	26	31	38	29	159
	比較	9	-2	4	7	-1	17
部屋	年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
第二会議	R5年度	21	20	17	28	23	109
	R6年度	26	19	26	34	46	151
	比較	5	-1	9	6	23	42

年度	4月	5月	6月	7月	8月	合計
令和5年度合計	47	48	44	59	53	251
令和6年度合計	61	45	57	72	53	288
前年度比較	130%	94%	130%	122%	142%	115%

② - 2 各会議室利用率

部屋	年度	4月	5月	6月	7月	8月
第1会議室	R5	22.1%	23.1%	20.2%	25.6%	27.2%
	R6	33.0%	20.7%	22.1%	34.0%	22.5%
第2会議室	R5	14.7%	17.3%	14.1%	23.7%	19.4%
	R6	23.7%	14.8%	21.8%	27.6%	30.6%
合計	R5	18.4%	20.2%	17.1%	24.7%	23.3%
	R6	28.3%	17.7%	22.0%	30.8%	26.5%

- ・8月末時点ではほぼ全ての月で前年度と同数値が増加している。1時間単位での時間貸しになったことにより、個人の有料利用が増えたのが大きな理由のひとつだと思われる。
- ・有料利用で来館した際、当施設でのイベントや登録団体の存在を知り、そこから派生して登録団体の活動や自主事業へ参加してもらう、新たなコミュニティが展開されており、新体制の地盤が築かれつつある。

③ 新規登録団体件数

	団体登録数	合計	目標値 (令和5年度は3月末の値)
令和5年度	6	147団体	153団体
令和6年度	3	156団体	166団体

- ・現時点で3団体と少ないのは昨年度末に立て続けに登録申請があったため。
現在対応中の例としては、現在、農園や漁業を営んでいる地元企業より、団体登録を前提にした相談を受けている。
また、教育関係の団体を作りたいとの相談に子育て支援のアドバイザーを紹介した。
- ・木更津市がオーガニックなまちづくりを推進しているため、環境保全やSDGsに関連した団体登録が目立った。
- ・団体数を増やすこと自体が目的ではないので、木更津の活性化に繋がるような団体を精査しつつ支援をしていきたい。

④ 相談件数

	相談件数	目標値 (令和5年度は3月末の値)
令和5年度	43件	79件
令和6年度	20件	150件

- ・件数が少ないのは今年度より関連性が低いもの(トイレを貸して欲しい、道を聞きたい等)を排除したため
- ・自身でイベントを開催したいのでその下見がしたい。地元企業より自社の事業を市民活動に繋がられないか等の相談があった。

⑤ 自主事業

㊦ - 市民心とからだの健康講座

「どうしよう」と感じた時、落胆せずに受けてほしい講座

5/15 パートナーは一体、どんな人？気質や特性を学ぶ

6/18 「困った」に直面した時、自分のこころと体を守る技術

7/17 困ったパートナーの関わり方の極意！しなやかに生きる方法

参加人数

5/15 対面 6人 オンライン 3人

6/18 対面 5人 オンライン 5人

7/17 対面 11人 オンライン 4人

■「健康よろず相談室」より石川氏を講師に招き、主に精神面からくる体調の変化とそのセルフケアを学ぶ講座。今年度より木更津市が運用しているアプリ「きさチル」でも広報を行い、集客に繋げることに成功した。アンケートの回答も好評。

参加者より「自分を客観視出来る様になった」「うまく心を整理出来た」等の回答をいただいた。

新たに始めた夜間のオンライン講座も参加者が思いのほか多く、今後も継続予定。

今後の課題、改善策

想定以上に需要のあったオンライン講座の環境を整備していく必要がある。

④ - 市民活動スキルアップ講座	・参加人数
5/12 「PCでのフライヤーの作成」	6人
8/18 「LPの作成」	4人

■登録団体自身に活動の周知や情報管理を身に付けてもらうため簡易的なツール(CANVA、ペライチ)を使用したウェブ関連の教室を開催した。

各講座とも最終的には参加者の殆どがフライヤーやLPを制作できるようになり、参加団体のスキルアップに繋げることができた。

参加者より「楽しく学べた」「わかりやすかった」との声があった。

今後の課題、改善策

次回以降は参加団体を増やすために、全体周知以外に施設利用時個別に声かけをして参加を募りたい。

⑦ - SDGs 推進事業

5/19 「木更津港海岸線ごみ拾い」	
参加人数	15人(内ラボより2名)

■「NPO 法人イルカ計画」と協働して木更津港の海岸線を歩きながらゴミを拾って行く。

この活動を通じて他の活動団体とも知り合い、新たな市民活動の輪が広がった。

今後の課題、改善策

SDGs は項目が多数あるのでその都度対応した登録団体と協働しながらゴミ拾いだけでなく様々な事業に挑戦していきたい。

⑤ - プログラミング体験会	・参加人数
6/23 「みらいラボ IT キッズフェスタ」	86名
8/4 「ゲームを作ってみよう」	7名

■中学生以下の子供達を対象にプログラミングを通じて、論理的思考や自主性、柔軟な発想を育てるのが目的。

- ・6月23日は市内でプログラミング教室「エスタ」「エスタシオン」を運営している、当施設登録団体「地域の学びステーション 木更津盛り上げ隊」代表 鈴木喬裕氏との協働事業。プログラミングソフト「マインクラフト」で木更津のマスコットきさぽんをクラフトした。教育委員会の後援を取得して市内の小中学校にチラシを配布し、

100件を超える申し込みがあり4ブロック全ての教室が全て定員に達した結果となった。

アンケート結果も良好で、特性のある児童「発達障害」向けの教室が評価されていた。

今後の課題、改善策

各ブロックの入れ替わりの際、手間取ってしまったので、次回より誘導人員を増やして対応していく。

- ・8月4日は当施設登録団体「Coder Dojo 木更津」との協働事業。
ノーコードツール「Slack」を使用してゲームを制作してもらった。
一緒に参加された父兄の方々も一緒に楽しみながら学んでもらえた。

今後の課題、改善策

今回は各々自由に制作してもらったが、もう少しイベントにテーマ性を持たせて「楽しさ」と「学ぶ」のバランスをとりながら上手く両立させていきたい。

㊤ - 市民協働事業

毎月第2金曜日開催 オレンジカフェ「ゆるる〜む」

毎月第3日曜日開始 本好き集まれ！ビブリオバトル

㊤ - 1 オレンジカフェ「ゆるる〜む」

- ・参加人数

4月	5月	6月	7月	8月
	18名	13名	7名	13名

■アロマセラピストの清水氏と中部包括支援センターの社会福祉士と三者連携の形をとりオレンジカフェを開催。アロマオイルを使用したハンドマッサージを行い、リラックスした状態で交流を図り、中部包括後援の元、深刻な悩み相談にも対応していく形をとった。

民生委員の協力もあり初回から定員に達する参加者があり、アンケートも概ね好評。月に一度の楽しみになっているとの回答もあり、地域高齢者の交流の場としての一役を担っている。

今後の課題、改善策

後期高齢者向けの事業なので、その年齢層に喜ばれるようなレクリエーションや体操等を参加者の意見を取り入れつつコンテンツを増やしていきたい。

㊤ - 2 本好き集まれ！ビブリオバトル

- ・参加人数

4月	5月	6月	7月	8月
10	6	6	6	6

■当施設登録団体「ビブリオの会」と図書館の司書や図書相談員との協働事業。
持ち寄った書籍に対する思い入れを、制限時間を設けスピーチしてもらい優勝を決める。単なる本の紹介イベントでは無く、司書や図書相談員の方々にファシリテーター

の役割をしてもらい、各書籍の内容について深く議論、意見交換し、異なる視点や解釈を共有することで、理解を深める読書について学ぶ貴重な機会を提供するのが目的。アンケート結果も好評。

見学に来た人が次回の参加者になるなどラボの自主事業として着実に定着しつつある。

今後の課題、改善策

8月現在男性の参加者が0名なので、下半期はテーマを決めての講座や朗読会等の企画を盛り込み、幅広い年齢層が気軽に参加出来るような事業にしていきたい。

㊦ - 親子のアトリエ

8/15 手形花火 ・参加人数7人

■同日に行われた木更津港花火大会と連動させたイベント企画。

黒い模造紙に、体に無害なインクを使用して子供達に花火に見立てた手形を押してもらった。

周知の遅れから参加人数の不安があったが、お祭り帰りや当館にトイレを借りに来た親子連れの方々が快く承諾してくださり、模造紙に大輪の「花火」を打ち上げることができた。画像をアップしたSNSでもかなりの反響があり、みらいラボの周知にも繋がった。

今後の課題、改善策

周知が遅れてしまったので、次回からはスタッフや該当ジャンルの団体の意見を取り入れ早めに企画書を作成したい。

㊧ - みなとぐちクリーン作戦

毎月第4火曜日

・参加人数

4月	5月	6月	7月	8月
1	3	2	1	1

■木更津駅西口周辺を中心にゴミ拾いをする。活動する時間帯の変更や、SNSにて周知はしているが中々ボランティアが集まらずスタッフのみで活動している状態が続いている。

しかし、活動する中で町内会の役員の方と知り合い施設の有料利用に繋がったり、活動報告をSNSにアップした際の反応は良いので内容を改善しつつ継続していきたい。

今後の課題、改善策

参加人数が増えていないので今後は近隣にフライヤーの配布や掲示をお願いして周辺地域への周知を図っていきたい。

㊦ - みらいラボコミュニティカフェ

毎月第2.4木曜日

・参加人数

4月11日	4月25日	5月9日	5月23日	6月13日	6月27日	7月11日	7月25日	8月8日	8月22日
7	2	1	1	2	0	0	0	0	0

■みらいラボを周辺住民の交流の場として利用してもらうために上記の日にちで1階フリースペースをワンドリンク無料で解放。個人によるワークショップも自由に開いてもらう。

今後の課題、改善策

今年度に入ってからワークショップを開いてくれていた方々が子育てや親の介護を理由に来られなくなってしまい、参加者も激減した。

コンセプトから見直しを図り、時間帯やワークショップを増やすなどして下半期は参加者の増加を目指したい。

㊧ - ボランティア・市民活動マッチングプログラム

〔随時〕実績2名

■施設内掲示物や登録団体向けのメールマガジンにて活動参加推進を目的とした事業を実施。

進学において、ボランティア証明書が必要な学生に当施設のNPO法人を紹介したり空地の有効活用の相談に訪れた来館者にまちづくりの団体を紹介したりと地域住民と市民活動団体との橋渡しの側面になっている。

今後の課題、改善策

より幅広い相談や紹介に対応出来るように多くの団体と交流を図り、市民活動への見識を深めるために座学もしていく。

㊨ - 困りごと解決事業

「地域の困りごと掲示板設置」〔随時〕物品譲渡(交換) 2件 活動実施 2件

■施設内に掲示されているホワイトボードに「これ出来ます」「これで困っています」「これ譲ります」「これをやってみたい」の4項目を記して、各々が希望を書いた付箋を貼り、地域一帯の住民や団体、企業が1for1で様々なものを共有、譲渡、協働しつつ、解決することを目的とした自主事業。

個人、団体問わず、市民活動へのボランティア参加を繋いだケースや絵本の寄贈やドールハウスの展示依頼などもあった。

今後の課題、改善策

現状付箋を貼られるケースが少ないので来館者の方々にもっと利用してもらうため、SNSや施設広報誌にのせて周知していきたい。

⑥上半期の取り組み

・施設利用促進、知名度向上を目的とした自主事業及びイベントの実施

- 高齢者向けのオレンジカフェ。未就学児の親子を対象とした親子のアトリエ等各年齢層に向けた事業を開催。施設のアピールに繋げた。

・各メディアを利用した広報活動

- かずさ FM 協力の元、申し込みのあった登録団体にラジオ出演してもらい活動の周知を行った。施設の宣伝においては地域情報誌「びびなび」の取材受け、HP を始め各 SNS へ積極的に発信。施設広報誌「ラボ通信」も配布範囲を広げ周知に努めた結果、昨年度に比べ自主事業への参加率が上がった。

・登録団体への個別サポート

- 活動が煮詰まっている団体へ補助金、助成金制度の紹介。必要に応じてチラシの作成や同じカテゴリの団体を紹介して交流してもらう等、後方支援に努めた。こちらより補助金、助成金の申請を勧めて採択を受けたケースが3件ある。

・関連機関との連携の強化

- 市民活動におけるより大きな難題を克服するべく周辺地域の関連期間との連携強化に努めた。

地域の高齢者問題に対応するべく中部包括支援センターと協働してオレンジカフェを開催。現在地元企業と社会福祉協議会とで三者連携の体制をとり、特性(発達障害)のある若年層の就労支援事業の計画が進行中。

⑦課題・下半期への取り組み

自主事業開催の遅れ

- 人員不足やスケジュール管理の甘さから開催に遅れがでた自主事業があった。今後はそのようなことが無いよう早めに計画、準備を進めていく。

登録団体との交流

- 施設運営を行っていく中で根幹にあたる登録団体との交流がまだまだ足りていないと思う。今後は施設内だけでなく各団体の主たる活動現場に赴き交流を図る必要を感じた。下半期は綿密なスケジュール管理のもと、団体との活動の場を広げていきたい。

若年層へのアピール

- 世間のみならず市民活動界限においても高齢化は深刻な問題であると言える。そんな中、若者に興味を持ってもらうことは重要な要素のひとつであり、必要不可欠な要素だと思う。今後はイベントに関しても学生達が気軽に参加できるものも開催し、各教育機関とも親交を深めつつ若い世代を取り込む活動もしていきたい。